

(57) 釜ノ沢(かまのさわ) 鉦山跡一追記

2020年6月

この鉦山の再調査を10年ぶりに行う予定にした。現在の状況の確認及び、本鉦山のガーミンによるGPSログもとりたいたからでもある。入手できた参考文献(1)によれば、この鉦山の坑道総延長は2540mに達している。坑道がこのように長ければ、それ相応の大量のズリが出ていたはずである。しかし、10年前には、このズリがどこにあるかは分からなかった。もしや沢に捨てて、大水の時流し出し捨てたのであろうか？ 本鉦山について、調べているうちに、参考文献(2)を手にした。「釜ノ沢鉦山鉦害防止事業」についてである。10年ほど前に、本鉦山後を訪問した時、沢の上流にコンクリート製の流路を伴った広大な平地があるのには気がついていた。何のための平地か？ 現地の開墾作業で開削したのであろうと考えていた。しかし、資料によれば、この平地は「鉦害防止事業」で造成されたものであった。すなわち、この所に坑道から出た大量のズリがおかれており、鉦害防止のために、この場所を改修した結果であった。逆推理も成り立つ、それほど大規模な鉦山であったとの。

今回の現地訪問も数回にわたっている。今回の追記も、それらを合体した探査結果である。といっても、10年後の現在でも現地はほぼ既報通りである。既報と本追記を一緒に読むことを勧める。



図1 水色曲線がガーミンによる経路ログ。車で461号線を玉生のA点の所で北上して行く。途中の三叉路のB点で、西荒川ダム方向への左側へ進む。右側は尚仁沢、東荒川ダム方向となる。西荒川ダム手前の赤丸付近が本鉦山跡。現地はほぼ車横付けである。

図2 (次ページ) 図1の部分拡大図。C点で左折すると、直ぐに川に出会う。「沈下橋」の手前に適当な空き地がある。D点である。確認できた鉦山跡は2カ所に分かれる。既報の通り、E点付近の1カ所と、G-H-赤丸-J-帯の1カ所。なを、釜ノ沢入口となるF点手前の黄緑丸は今回確認できた坑口跡である。



www.kojima-doken.com/kamanosawa.html

釜の沢鉱山鉱害防止事業 水路工外工事

工事概要	工期
3面水路工 L=117.6m	H13.7.6~H14.3.15
法面保護工 A=3233.2㎡	請負金額
コンクリート使用量 V=1600m ³	¥124,000,000
	発注
	栃木県 矢板林務事務所
着工前	完成





工事順序



工事は土工から始まり、3面水路の施工へ移りました。台風シーズンを迎えての土砂崩れを警戒しつつ、安全施工を心掛けました

図3 参考文献(2)よりダウンロードして複写添付。図2で示している赤輪の付近を下流側から上流側を見た様子であろう。現地には、長さが100m以上、巾及び高さが数メートルもある大きなコンクリート製U字型水路、及び、それに隣り合っている舗装済み林道が現存している。写真9参照。沢に沿って積み上げ捨てられていた大量のズリが沢の水流によって浸食され、下流に流れ出さないように対策をしたようである。

鉞山跡写真



写真1 C点である。村道から赤矢印のように前方で左折し、狭い林道に入る。直ぐに沈下橋に至る。



写真2 今回初めて確認した坑口跡。D点から林道をF点に進んで行くと、途中右側の斜面中に黒い穴が見えた。赤輪の所である。



写真3 坑口に近づき、坑口から内部を覗く。入口はほぼ埋まりかけている。



写真4 G点付近の沢で見つけた露頭鉞脈。1m位の幅か。右端の10cm～20cmの幅は少し鉞物リッチである。この当たり一帯に薄いながら露頭鉞脈は沢山ある。観察地には良いところである。坑口跡も幾つかあるので。既報参照。



写真5 G点の所である。林道脇にある石垣跡。この石垣を最下段として、山の斜面に沿ってH点付近まで多数の石垣とコンクリート建物跡がある。鉱山施設跡としては一見の価値がある。石垣に向かって左端から容易に登っていきける。



写真6 幾つかあったコンクリート建物跡の1つ。ホッパーのようである。この斜面中にいくつもある。



写真7 途中にあった石垣とコンクリートからなる複雑な鉱山施設跡。この当たりの施設跡は「マチュピチュ」を思わせるかも？



写真8 G点からH点までの山の斜面にほぼ一直線をなして多段の石垣段及びホッパーらしい幾つかのコンクリート製建築物がある。この写真はそれらの最上段である、H点付近。広いプラトーになっている。中央部には複雑なコンクリート基礎跡がある。プラトーの端には明らかなズリの丘がある。前方の赤輪付近。どこから運んできたのであろうか？ 写真の左手にはホッパーらしいコンクリート建物跡、ここで最高位の。左端の赤輪の所。



写真9 H点のプラト一部の中心部にあった「奇妙な」コンクリート構造物。中央部に縦穴があったのかも？ 釜ノ沢鉱山の「鉱山図」が手元に無いのが悔やまれる。



写真10 写真8, 9で示しているH点から緩い斜面を登り上がると、直ぐに立派な舗装林道に出た。I点である。図2を見れば、D→F→と、車で林道を進めば、この地点に容易に着ける。



写真11 図2中の赤輪の最下流部から上流方向を見ている。右側の赤線分の下には大きくて長いU字型導水路がある。左側の赤線分は舗装道路。20年も経過し、木立などが鬱蒼と育っているが、図3で示した写真の箇所と判断している。この当たりでじっくりと観察を行えば、良好な銅鉱物を見つけることが出来るかも。

採集鉱物写真

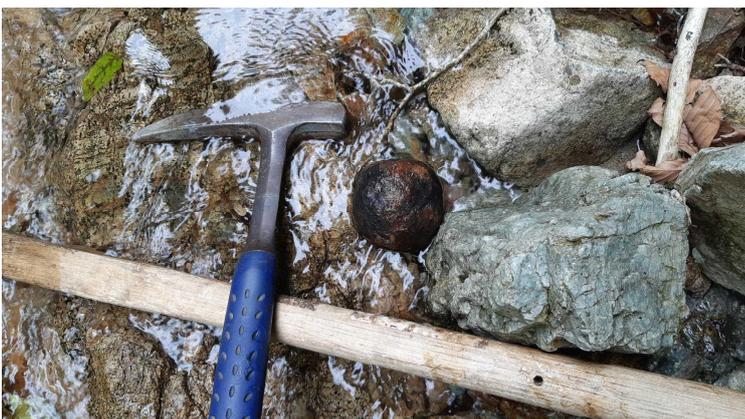


写真12 G点付近の沢で、「全面錆だらけの丸石」を採集した。中央の黒丸。極めて重い、金属の塊のようであった。現物を見つけた状態に戻しての一例である。



写真13 4つの「重い丸石」。一番大きい丸い物が写真12の物。直径10cm弱。残りの3つも近傍で採集した。



写真14 ハンマーでは全く割れなかったもので、帰宅後、ヤスリで表面を少し削った。銀色に輝く部分が露出してきた。磁石は確りつく。今のところ、銅鉄合金の塊と考えている。孔雀石、緑青が全く見えていないのが気になるが。

参考文献

- (1) 「塩原図幅地質説明書」、地質調査所、昭和30年。
地質調査所で複写したが、残念ながら、肝心の地質図は添付されていなかった。
- (2) 小島土建株式会社のホームページ。 www.kojima-doken.com/

(57) 釜ノ沢(かまのさわ) 鉦山跡

栃木県塩谷地区にある。参考文献(1)によれば、「寺島鉦山の西北に位置し、西荒川に沿っている。石英斑岩または流紋岩の周辺部に存在する銅石英脈で、・・・」

玉生から上寺島を目指して北上する。熊ノ草地区に入る。「熊ノ草」停留所(2010年現在)の所に、進行して来た道の左側に林道入り口がある。この林道を進むと直ぐにコンクリート製の沈下橋がある。橋の先で林道は左右に伸びている。車を橋の手前で降りよう。橋を渡って右側の林道を進む。沢を右側にして進むこと100mの当りで、平らの森の中に入る。進行方向左側には山の斜面がある。この斜面に向かって進んだ当りに鉦山跡がある。地形図中の上の赤丸当りである。斜面には幾つかの坑口もある。この所の林道の道脇で、悪くはない黄鉄鉦の標本を採集することができた。

この赤丸のところで、山の方向を見ると、鞍部がある。これを乗り越えると地形図中の真ん中の赤丸の鉦山跡に出られる。沢沿いにあり、幾つもの坑口がある。この箇所には、別経路でも来ることができる。先ほどの橋の先を左の林道方向に進む。少し進むと沢があり、この沢に沿った林道を進めばよい。中央の赤丸の当りの林道から、南の山の斜面に、幾つもの段々となっている石垣の鉦山施設跡がある。林道脇には、鉦石搬出施設らしい遺跡もある。ここを登り上がると、最上部は結構広い平地となっている。大きなコンクリート製の遺跡もある。



赤丸が鉦山跡。緑色が坑口、たくさんある。青色が施設跡。

地図 国土地理院2万5千分の1地形図「玉生」

調査日 2010年3月、その他の日

参考文献

(1)「日本地方鉦床誌 関東地方」、今井、河井、宮沢、朝倉書店、1973年。

鉾山跡写真



中央右側に、停留所。中央左側に林道がある。これを進んでいく。



沈下橋があり、先の林道は左右に分れている。どちらを進んでも鉾山跡には行ける。



前述の林道を右側に進む。100m先ほどの左側に、鉾山施設跡。前面は斜面となっている。斜面に坑口がある。斜面に鞍部があり、これを乗り越えると、沢山の坑口がある沢に出れる。



前掲の鉤山跡の坑口の1つ。



沢

地形図中の真ん中の赤丸付近の坑口。の流に沿って3つほど見える。



この付近には、数cm幅であるが露頭鉤脈を視認できる。



地形図中の下の赤丸付近の鉱山施設跡。林道の脇にある。

採集鉱物写真

標本は地形図中の上の赤丸当りで採集できた。真ん中及び下の赤丸当りでは未だ見つけていない。



上の部分に 5 mm 厚の黄銅鉱の平らな塊がこびり付いている。

追記

2010年12月に、再探査を行った。上流の方に2つの坑口跡と、沢の左岸に長く伸びている導水路跡を見つけた。コンクリートと石垣でできている。導水路の上流の部分は崩落して、欠けているが、先には滝があった。多分、その滝から用水を鉱山施設に送るために設置したものであろう。導水路の下流部分も急傾斜の斜面の所で欠けている。が、沢の右岸にはひな壇のように鉱山施設がある。沢を渡って鉱山施設に用水を送り込んだのであろうと思う。



赤丸が鉱山跡。緑色が坑口、たくさんある。青色が施設跡。沢の上流に新たに2個の坑口跡があった。黒破線は導水路と思われる。上流側の先には滝があった。下流側の先には鉱山施設跡がある。

地図 国土地理院 2万5千分の1地形図「玉生」